施設賠償責任保険の適用となった事故事例

地域交流牧場全国連絡会が加入している施設賠償責任保険が適用となった事故を紹介します。事故内容は、飼養動物による来場者のケガや、敷地内に駐車している自動車に対する損傷など、多岐にわたっていますが、**いずれも気を付けていれば防げたもの**ばかりです。

このような事故が続くと、消費者との交流活動における「安全性」を確保できず、牧場だけでなく交牧連、ひいては酪農業界全体の信用を落としかねません。また今後、会費および保険料の引き上げにつながる可能性もあります。

ここにある事故事例を参考に、敷地内の設備の点検や、飼養動物との触れ合い方法等について、いま一度ご確認のうえ、引き続き安全な受け入れを行ってください。

No.	事故内容（H26年度～R3年度）
1	牧場敷地内に設置してあったコンクリート製のステップが割れ、来場者の車を破損させた。
2	施設内の雨漏りによる水たまりに、足をとられ転倒し、足を骨折した。
3	乗馬体験をしていた際に、参加者が落馬し、左腕を骨折した。
4	牧場内で飼育しているヤギが、駐車していたお客様の自動車を損壊させた。
5	敷地内のパラソルが設置不良により、風に飛ばされ、自動車３台と接触した。
6	搾乳開始時前に、酪農体験者が牛舎に入ったところ、牛が触れ合うように頭を押し付けた際、腹部を痛めた。翌日、尿に血が混じっていることが分かり１か月間入院した。
7	牧場体験に参加していた子供がヤギに蹴られ、目の下を縫うケガを負い、その日に縫合の手術をおこなった。
8	牧場内で飼育していたヤギに押され、ポニーに近づき、脇腹を噛まれた。
9	牧場内に設置しているブランコが倒壊し、2名が負傷した。
10	牧場内にてポニーの乗馬をおこなっており、従業員がポニーを引き、子どものみ乗馬できるようにしていた。母親も付き添いでポニーの隣におり、突然ポニーが暴れて母親がケガをした。
11	牛のえさやり体験中、背後に積んであった牧草ロールが崩れ、被害者の背中にぶつかった。
12	トラクター体験中にトラクターが破損した。
13	施設内の落葉プール広場にて、被害者がそりを利用したところ、滑り落ちた先に落ち葉が用意されておらず、背中を強打した。
14	見学に来た被害者が、牛舎施設を見学した際に入場可能なパドックへ入った際に牛に足を踏まれて負傷した。
15	従業員が牧場内の駐車場付近にて、草刈り機を使用して草を刈っていた際、小石を飛ばしてしまい、その小石が入場者の車にぶつかり、傷つけた。
16	来場者が牧場内の馬にエサを与えていた際に、馬に人差し指を噛みつかれた。
17	牧場内に設置してある鐘を体験牧場に参加した子供が鳴らしたところ、紐部分が外れ落ち、頭部に落下しケガをした。
18	牧場で飼養していた牛が、ペン内の柵を飛び越えて敷地外へ出て、車道にて走行中の車両2台と接触し、損害を与えた。
19	乳しぼり体験プログラム中、搾乳中の牛が左後ろ脚を上げた際に体験者のダウンジャケットのファスナー部分に引っかかり、破れた。
20	樹木の伐採作業中、意図しない方向へ樹木が倒れ、電線に接触、電柱を折った。
21	牛を別の区画へ移動させる際に、牛が驚き後ずさりをした。その時、牛の右後方にいたボランティアの被害者が左足を踏まれ受傷した。
22	牧場の動物広場にて、来場者の子供がウサギにエサをあげた際に、指を噛まれた。
23	施設内でトラクターと利用客車両が接触事故を起こした。

酪農専門の新規就農ポータルサイト「酪農家になりたい」を開設!!

酪農専門の新規就農プラットフォームとして、酪農への新規就農に関する様々な情報を掲載しています。是非ご覧ください!

酪農家になりたい　検索　https://dairyfarmer.jp/

DFニュース　2022年6月号
発行日／2022年6月　発行／地域交流牧場全国連絡会　〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1 樹内ビルディング4階（一社）中央酪農会議内
TEL03-6688-9841　FAX03-6681-5295　ホームページ https://www.dairy-farm.jp/

地域交流牧場全国連絡会
令和４年６月発刊
DAIRY FARM NEWS
6月号
2022

DF NEWS

令和４年度代議員会を開催

日本酪農への支援・理解の獲得の更なる達成を図る！

この２年間、私たちの活動に影響を与えてきた新型コロナについては、徐々に制限が緩和され、６月からは外国人観光客の受け入れが本格的に解禁されます。コロナ前の生活に戻りつつある中、交牧連の全国の活動は、コロナ禍の状況を踏まえつつ、感染症対策を講じながら、対面での開催を視野に入れた活動計画を検討しています。

現在、飼料価格や資材価格の高騰等により、酪農経営は非常に厳しい状況です。そのため交牧連としては、これまで行ってきた「酪農教育ファーム活動等の社会貢献活動」や、「対消費者コミュニケーション活動」に加え、需給改善に向けた取り組みや、厳しい酪農情勢を理解してもらう活動を行う必要があると考えています。

酪農をめぐる情勢が大きく変化する中、令和４年度事業計画・予算については、現時点で決定しきれない事案がありますが、忌憚のない意見を賜り、より良い計画・活動にしていければと思います。

主催者あいさつ

会長　**加茂　太郎**
［千葉県・(株)加茂牧場］

令和４年度地域交流牧場全国連絡会
代議員会を開催

日時：令和4年6月3日（金）13時～
手法：ハイブリッド（対面［中酪会議室］とWEB［ZOOM］の併用）

去る6月3日、本会は令和４年度（第23回）代議員会を対面とWEBを併用したハイブリッド形式にて開催しました。代議員、理事及び関係者計52名が集まり、令和３年度活動報告・収支決算、令和４年度活動計画・収支予算、令和５年度代議員数について審議し、全て原案通り承認されました。

来賓紹介

農林水産省畜産局牛乳乳製品課
課長補佐 **中坪（ナカツボ） 康史（ヤスシ）** 氏

一般社団法人中央酪農会議
専務理事 **迫田（サコダ） 潔（キヨシ）** 氏

令和４年度活動計画（概要）

酪農を巡る情勢や本会活動における諸課題等を踏まえ、WEBも活用しながらスローガン「つなぐ・続ける・育てる」に沿って、従来の活動（酪農教育ファーム活動等の社会貢献活動、生産者自らが行う「顔の見える」対消費者コミュニケーション活動、後継者世代の会員の繋がりを広げるための活動）に加え、本年度は、生活者に対し、消費を促し、厳しい酪農情勢等に対して認識を高める活動を強化して実施する。それにより、本会の目的である「日本酪農への支援や理解の獲得」の更なる達成を図る。

なお、新型コロナの状況を踏まえ、令和２年度に作成した「新型コロナウイルスを想定した消費者交流活動に係る感染予防ガイドライン」を参考に、慎重に活動することとする。

1 つなぐ ～全国的なネットワークを活かした相互研鑽や交流～

① 全国研修会の開催

コロナ禍の状況を踏まえつつ、内容、スケジュール、参集範囲、運営方法等を検討のうえ開催する。なお、令和４年度は関東ブロックで開催する。

② 研修会・勉強会の開催

一般消費者の目線に立った「畜舎環境の整備」や「農場で飼養している動物の管理」の重要性に係る勉強会や、牧場（WEB）視察研修会等の開催を検討・実施する。

③ ブロック活動の充実

WEBも活用しながら、ブロックの実態に応じた活動を企画・実施する。会員を集めて行う活動は、新型コロナの対策をし、慎重に実施するとともに、WEBの活用も検討する。なお、地域活動費は、例年同様、代議員会が終わった段階で、ブロックごとの配分額を全額、支払うこととする。

④ 情報共有と発信

DFニュースの発行、ホームページ・Facebook・LINEオープンチャット等を活用した情報共有と発信を行う。

2 続ける ～酪農教育ファーム等の社会貢献活動～

東日本大震災への支援については、今年度より全国活動としては実施しないこととする。

今年度より、全国の会員が参加・協力する酪農教育ファーム活動等の社会貢献活動を実施する。開催地は毎年持ち回りとし、具体的内容は担当理事及び開催地域ブロックにて検討のうえ開催する。

3 育てる ～酪農後継者と酪農理解者の育成～

① クラブ・ユース事業の実施

後継者世代及び担当理事により、勉強会の開催等を企画・推進する。

② 新規会員の獲得

③ 酪農雑誌「デーリィマン」における連載

交牧連の認知度向上や、新規会員の獲得等を目的に、会員等が持ち回りで執筆する。令和４年４月号から令和５年３月号まで計12回の連載とし、以降の継続は検討する。

④ 酪農理解者・応援団の獲得や需給改善・理解醸成に向けた取り組み

生活者に対し、消費を促し、コスト増等厳しい酪農情勢に対し認識を高める取り組みを検討・実施する。なお、具体的内容は担当理事を決定のうえ、広告代理店の活用等を含め検討する。

「需給改善・理解醸成に向けた取り組み」に対する要望（抜粋）

- 現場の酪農家の声が消費者に届くようなやり方をしてほしい
- 広告代理店に丸投げせず、本会独自の取り組みを考えてほしい
- 他の団体と一緒に使うのではなく、本会の活動に使ってほしい
- 急ぎすぎて中途半端になったり、予算を使うこと自体が目的にならないよう、有効な形で会員が納得できる使い方をしてほしい

4 その他（事業を円滑に推進するための活動等）

① 防疫対策の強化

防疫ツールの制作・配布。

② 活動ツールの共同作成及び購入の検討・実施

③ 経費節減と予算の適正執行

※詳しくは、冊子「令和4年度決定事項」をご確認ください。

■ 新たな仲間が加わりました！

今年度、新たに入会された皆さんをご紹介します。

北海道ブロック	東北ブロック	関東ブロック	九州ブロック
鈴木牧場（広尾町）	宮城県農業高等学校（宮城県）	小針牧場（栃木県）・三浦牧場（千葉県） 片倉牧場（神奈川県） 日本獣医生命科学大学 富士アニマルファーム（山梨県）	森牧場（福岡県）